

# 博物館だより



No.118

平成28年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

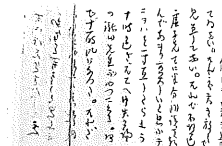
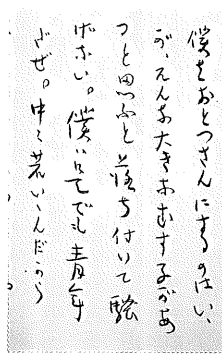
## 博物館新展示・ここに注目！ 小宮豊隆資料

### 「漱石コレクション」 Vol.5

夏目漱石没後百年の今年、文豪ゆかりの事は注目の的、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛感した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。今回はコレ！

#### ●小宮宛て漱石書簡(2) 明治35年5月2日

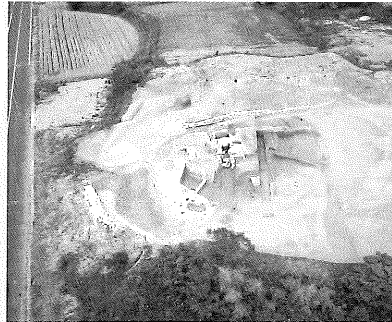
小宮はのちに自他ともに認める漱石の一番弟子となりますが、出会って間もないころは田舎出のおとなしい初な青年だったよ



▲書簡の全容(下)、上は部分で「僕は是(これ)でも青年だぜ」とおどけた記載がみえる

うで小説『三四郎』を地でゆくようなところがありません。江戸っ子で教師でもあった漱石からすると「このままじゃ伸び悩んじゃまうな」と思えたのか「若者はこうでなきゃ」といったアドバイスとともに終始漱石を父親的存在として頼りがちだった小宮に「いつまでも僕を親父がわりにしちゃいけない」と諭します。

その諭し方は漱石一流のユーモアにあふれており、書簡をもわらった小宮も思わずクスリと笑ったのではないかと思います。



▲京築初の装飾壁画が発見された告見大塚古墳(みやこ豊津1C付近/九州歴史資料館提供)

## 平成28年度 博物館企画展② 予定会期：9月27日(火)～10月10日(月) 九州歴史資料館 協力企画展 発掘速報展2016 東九州自動車道関係遺跡文化財発掘調査成果展

博物館では九州歴史資料館(福岡県小郡市)との共催で標記の企画展を開催します。

東九州道の建設に伴って行われた発掘調査の成果を紹介するもので、みやこ町での成果も含まれています。ぜひご覧下さい。

#### ●場 所 当館展示室

#### ●観覧料 常設展の観覧料

(大人200円・高校生以下は100円)をご覧ください。

## 9月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 9月3日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】 9月10日(土) 10時00分
  - 【古典かな講座】 9月17日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】 9月24日(土) 10時00分
- ※日程等変更となる場合があります。

## 文化遺産ボランティア養成講座参加者募集!

博物館ではみやこ町文化遺産活用実行委員会監修のもと、町の文化遺産の保存・活用活動(ガイド・助っ人・メンテナンス活動など)に従事するボランティア養成講座を開設します。活動に関心があつて現地への行動力を有し、講座終了後はスタッフとして活動したいお考えをお持ちの方ならどなたでも参加いただけます。詳しいお問合せは博物館まで!

#### ■講座行程(予定)

10月3月までに月1回程度の座学や現地研修を実施。初回は左記日程で博物館にて。10月9日(日) 10時～12時

#### ■留意事項

現地研修時は研修先施設使用料等の実費を徴収します。

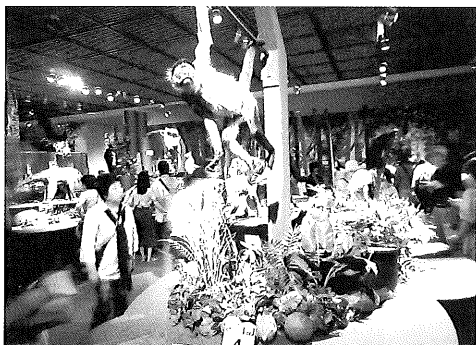
#### ■申込み手続き

電話で博物館宛ご連絡下さい。連絡・お問い合わせ先 博物館 ☎3314666

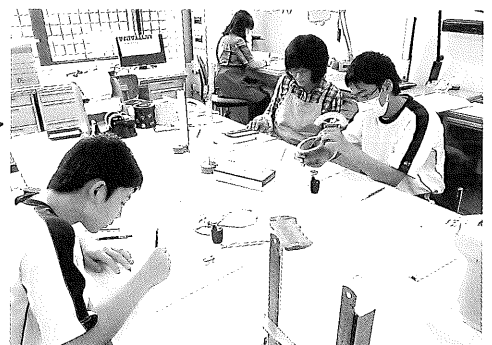
## 7月の業務日誌から

7月28・29の二日間、豊津中学校2年生2名による職場体験学習が行われました。遺跡からの出土資料の整理作業を体験いただきましたが、初めて扱う出土品の手触りに興味津々の様子でした。

7月30日(土)、博物館友の会と共催で文化財・博物館研修を行い、話題の特別展2件を見学しました。九州国立博物館「東山魁夷展」と福岡市博物館「大アマゾン展」、双方見応え十分でした。



▲「大アマゾン展」の会場内はエキゾチックな雰囲気満点!



▲「実測」と呼ばれる出土遺物の記録作業にチャレンジ

# みやこの歴史発見伝 91 みやこ町の古い地名2

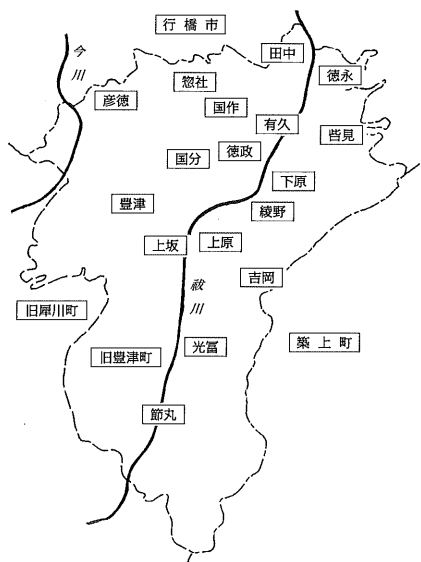
## 豊津地区 1

今回からは町内の大字などの古い地名を取り上げます。

主にその地名の由来や、その地名がいつ頃できたものかを考えていきます。なお、新しい地名や由来のよくわからない地名については、今回取り上げておられませんのでご了承ください。

なお、掲載した内容は、主に『角川日本地名大辞典』、平凡社発行の『日本歴史地名大系第41巻「福岡県の地名」』などを参考にしていきます。

**祓川・祓郷**  
祓川の由来は、奈良時代に行



▲豊津地区の大字

**徳永**  
徳永はみやこ町の北東隅に位置し、祓川の東岸の段丘上に立地しています。地名は土地の開拓者がつけた好字佳名と考えられています。

徳永川ノ上遺跡では弥生時代の約千八百年前の集落や墓地が発掘されています。

古文書では建武三年（一三三六）の少弐頼尚の宛行状（主君から家臣に所領や役職などを与える文書に「豊前国得永地頭職之事」とあり）が、みやこ町の徳永か、行橋市北西部の徳永のことか考えられます。

### 皆見

皆見は徳永の南側に隣接し、祓川の東岸の段丘上に立地しています。

草場村の「豊日別宮縁起」に祓川が小流浅水であることから浅見川と称し、転じて朝見さら

に皆見となったとあります。大宝二年（七〇二）の「豊前国仲津郡下里戸籍」には、丁勝巻手の妻に「阿射弥勝布施売」の名が見え、皆見の地名は奈良時代以前にさかのぼるようです。

南方の下原七反田遺跡では奈良時代に大宰府と宇佐八幡宮を結んでいた官道が発見され、隣接する皆見八ッ重遺跡では平安時代の井戸が発掘されました。

### 下原・綾野

下原・綾野は皆見の南側に位置し、祓川東岸の段丘上に立地します。

「豊前国遠鏡」によれば、東側の地は十世紀前半に編纂された「和名類聚抄」に記載がある築城郡綾幡郷で、はじめ綾幡野

と称していましたが、略されて綾野になったといえます。また、「京都郡誌」には「下原ハモト

上原ト同一村ナリシガ、後世其ノ中間ニ綾野村起リ、分レタトイフ」とあります。しかし、綾野は字義通り綾織物業の里で、早くから開けた土地であり、のちに南側に上原、北側に下原が成立したともみられます。

### 田中

田中は徳永の西側で、祓川西岸の沖積地に立地します。

「豊津町誌」では、地名の由来は「祓川西岸に開けた広い田園地帯の中の村であろう」とし、「村の起源は古く、一帯は大化改新による条里制遺構をよく残している」としてあります。

### 有久

有久は田中の南方の沖積地に立地します。地名は村の開拓者がつけた好



▲惣社八幡神社

字佳名と考えられています。

集落はもと字菰田（東側の川寄）にありましたが、文政一年（一八二八）の洪水の後に現在の地の字塚田に移ったといえます。

### 国作

国作は祓川西岸の沖積地に立地しています。

国作の豊前国府跡からは、奈良時代から平安時代の大規模な建物跡や希少な出土品が多数発見されています。

「豊前国古史地名考」は「国造ノ住タマヒシ地ヲイニシヘ久爾都玖理村ト唱ヘタリ。其国造ノ造ノ字ヲ書改メ、末遂ニ古久佐玖村トハ唱ヘタルナルヘシ」とあります。「京都郡誌」では「国作ニ御所ト称スル地アリ。コレ国造ノ住セシ地ナリトイヒ、或ハ国司ノ住セシ地ナリトモイフ」としてあります。

### 惣社

惣社は国作の西側で、沖積平野の西端部に立地しています。

惣社から国作の広い範囲で弥生時代から古墳時代の大きな集落が発掘されています。

地名は豊前国の惣社に由来します。惣社八幡神社の惣社とは豊前国の総社で、平安時代に国司が豊前国内全神社の神霊を国庁の隣接地に集めて祀ったものです。江戸時代以前に国作村から分村したとみられています。

（末永弥義）